美しき森、美しき時。

SHIROYAMA HOTEL
kagoshima

城山観光株式会社

Copyright © 2022 SHIROYAMA HOTEL kagoshima.

城山ホテル鹿児島はアール・ブリュットアートを広報活動に活用しています。

illustration by えりこ

designed by HIFUMIYO.CO.,LTD.

本書掲載の写真、記事などを許可なく無断で転写、転載することを禁じます。

SHIROYAMA HOTEL
kagoshima

— サスティナビリティレポート —

Sustainability Report 2024-2025

index

CEO Message - P1

Origin - P2

会社概要 - P3

SHIROYAMA HOTEL kagoshimaのSDGs - P4-5

循環経済の構築を目指して - P6

脱炭素社会の実現に向けた取組 - P7

地域連携・支援活動 - P8

食品ロス削減の取組み - P9

Well-Being経営の推進 - P10

様々な認定・評価 - P11

JOB INTRODUCTION - P12

SDGs推進の歩み - P13

ホテルオリジナルマスコット
「鹿の児島さん」
幸せと夢を叶える案内人

創夢コンシェルジュ
として誕生しました。

SHIROYAMA HOTEL kagoshima

時代や時流の変化を捉え 自立した組織を目指す。

2019年に「SDGs宣言」をしてから今年で5年が経過しました。
この5年間、感染症による世界的な混乱、ウクライナ危機、大規模自然災害の頻発など、私たちを取り巻く社会や自然環境は著しく変化し、現在SDGsの重要性と取り組みの緊急性はさらに高まっています。

そして同時に、デジタル技術やAIなどの先端テクノロジーを駆使した企業戦略が加速しました。これらの技術革新は、SDGs達成に向けた新たな可能性を開いていると考えています。

将来の不確実性に対する耐性を築き、予期せぬ変化に迅速に対応できる体制をいち早く整えるためにも、DX戦略には全社を挙げて最優先で取り組んで参ります。

さて、私たちは今年4月、2023年度までの中期経営計画を終え、新たに2024年度から向こう3年間の計画を策定しました。この新しい中期経営計画では、「SDGs経営で人に愛され、選ばれるホテルになる」というビジョンの下、あらゆる面で持続可能性を盛り込み、環境・社会・人権により一層配慮した経営戦略を展開していくことを重要な柱としています。組織内のコミュニケーションをしっかりと図り、時代の変化、時流を捉え、自分たちで考え行動する自立型の組織を目指していきたいと思っています。

私たちは今、歴史の転換点に立っています。より公正で持続可能な社会を次世代に引き継ぐために、従業員一丸となって、これまで以上に強い危機感をもって取り組んで参ります。
また、SDGsの達成には企業単独の努力だけでなく、お客様、お取引先様、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの協働が不可欠です。皆で共通の目標を持ち、鹿児島という地域の特性を活かした取組みを進めることで、地域が目指す未来を実現できるものと信じています。

本書をご覧頂いた皆様におかれましては、どうか今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどお願いしますと共に、
本書に向けた忌憚のないご意見、ご感想を賜りますようお願い申し上げます。

城山観光株式会社
代表取締役社長　矢野　隆一

（写真）天文館1・4街区に建てられた森永キャンデーストアでの集合写真。
この場所には再開発事業により、2022年4月新たな複合施設「センテラス天文館」が開業しました。

始まりは、一軒のアイスキャンディ屋でした。

昭和23年5月8日、戦後復興真っ只中の鹿児島市天文館に「森永キャンデーストア」がオープンしました。

昭和21年3月に上海から引き揚げた保直次・好子夫妻が、古レンガやビールの空きビンを売って稼いだ資金を元に、甘いもので人々の疲れを癒したいという思いから始めたアイスキャンディー屋は、当時珍しかった洋風の外観やこだわりの内装が功を奏し、連日多くのお客様でにぎわいました。

徳之島出身の保直次は、10代のころから行商の仕事を始め、上海で始めた運送業の事業も持ち前の商才で拡大させましたが、終戦により何もかも失い、鹿児島では裸一貫からのスタートでした。

そして、キャンディーストアの売上資金を元に保直次は長年の夢でもあったホテル建設を現実にするために動き出します。

大きな壁が立ちはだかったホテル建設計画

建設予定地に決めたのは、鹿児島市内にある標高108メートルの小高い丘「城山」の頂上でした。
保直次は、まずは城山をみなさんに親しんでもらえる場所にしようと「城山遊楽園」というレジャーランドを作りました。1962年10月に完成した城山遊楽園はボーリング場や回転展望台などレジャー産業が少なかった当時の鹿児島において大変な人気を博し、親しんでもらえる場所としての念願をかなえることができました。

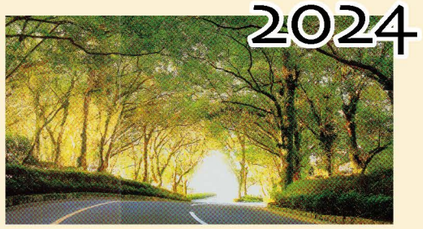
また翌年、1963年3月には敷地内に城山観光ホテルが開業し、その名の通り多くの観光客を迎える場所となりました。

1971年、保直次は城山遊楽園を閉鎖し、ホテル新館建設計画を進めます。
「どうせ造るなら、将来に誇りをもって残せるような立派な建物を建てよう。城山の頂上に西日本最大級のホテルを。」
しかし城山は国の天然記念物であり、西郷隆盛が西南戦争最期の地とした場所。鹿児島県民・市民にとって極めて神聖な場所であったため、この計画が発表されると、市民の間から大きな反対運動が起こりました。保直次は諦めることなく、自ら周辺住民の家を訪ね一人一人に計画の目的を説明し、理解を求めました。
「ホテルは都市の顔であり、文化。国際観光都市鹿児島の未来の為にも一流のホテルが、鹿児島に迎賓館が必要なのです。」

保直次の頭の中には、すでに国内外から多くの方々が来られる拓かれた鹿児島の未来がありました。

県民の床の間、鹿児島の迎賓館として

（写真右）開業当時の城山観光ホテル。標高108メートルに建てられたホテルは当時地上3階地下1階、客室数は63室でした。



1963年3月23日城山観光ホテル開業。
そして1974年、ホテル新館落成。
「このホテルは、鹿児島市民・県民の、みなさまのものであります。わたくしには神から預かったこの城山を、立派に活かし、守る使命があります。」
完成披露レセプションで保直次がこのように挨拶すると、会場内の拍手が鳴りやまなかったといわれます。

現在、ホテルフロント玄関に向かうアプローチは、楠のトンネルに囲まれ、森の中のホテルである存在感と、歓迎の気持ちを表しています。これは、ホテル建設に伴い、貴重な自然林が破壊されると懸念された問題を、保直次が、500本以上の楠を新たに植えることで城山の森の環境を守る約束を果たしたものです。ホテル開業から2023年で60年を迎えました。お陰様で地域の皆様に愛され、国内外から多くのお客様をお迎えできるホテルになりました。私たちはこれからもずっと、創業者の使命を大切に守って参ります。

会社概要

経営理念 - Philosophy -

地域に密着した事業を通して地域社会に貢献し
時代の変化に即応した「革新と挑戦」を続け
お客様、お取引様、従業員と
その家族の幸せを目指します。

城山観光株式会社社章

城山観光のアルファベットの頭文字SKを、鹿児島のシンボル・桜島と、事業の節目ごとに現れた瑞光の鷹とダブらせてシンボライズ。円は創業時代からの社のモットー「社内の和」を表し、その中にSKを桜島の噴煙に模して右肩上がりに配した。揚げた目標、即ち「夢」に向かって真っすぐ突き進む強い意志力と永遠の繁栄が込められています。

SHIROYAMA HOTEL kagoshimaシンボルマーク

城山のクスノキの萌えいずる樹勢を表す。森羅万象の秩序の基本とされる3と7を、
3枚の葉と7個の円にシンボライズ。
宇宙のリズムに合致し千客万来、ホテル繁栄の願いを込めています。

会社概要

会社名	城山観光株式会社
本社所在地	〒890-8586 鹿児島県鹿児島市新照院町41番1号 電話番号　099-224-2211
代表者名	代表取締役社長　矢野 隆一
資本金	3,000万円

事業内容 ホテル事業（SHIROYAMA HOTEL kagoshima）

客室	355室
露天温泉	桜島・錦江湾と鹿児島市内を一望
レストラン	和洋中8レストラン（バイキングレストラン含む）　割烹2店　バー2店
宴会場	大小16会場（コンベンションホール1000名以上収容）
婚礼	2015年度実績805組

https://www.shiroyama-g.co.jp/

サスティナビリティ基本方針

環境：城山の自然環境を守ります
社会：持続可能な地域の発展に貢献します
人権：先人の英知を継承し人材育成に努めます

SHIROYAMA HOTEL kagoshima

私たちの取組み

SDGs

SHIROYAMA HOTEL kagoshimaのSDGs

私たちは、企業活動を行うにあたり全うすべき社会的責任（CSR）を
環境・社会・人権の3本柱とし、
それぞれの持つ社会課題を解決するための活動に取り組んでいます。

企業のCSR活動～社会課題解決に向けた取組み

	社会課題	解決に向けた取り組み
環境 Environment	・地球温暖化 ・環境汚染 ・資源不足	・温室効果ガス排出制御 ・資源循環 ・食品ロス削減
社会 Society	・都市部人口集中 ・過疎化 ・経済縮小	・地産地消の推進 ・観光需要喚起 ・地域連携の取組
人権 Human rights	・少子化 ・超高齢化 ・人口減少	・女性活躍推進 ・ダイバーシティ経営 ・働き方改革

【第1の柱】 環境配慮の取組み

環境保全に取組み、豊かな城山の森を次の世代またその次の世代へ引き継ぎます。

（写真上）：画像一番左が鹿児島伝統野菜の一つである伊敷長ナス

（写真下）
感染症対策アクリル板をリメイクして作成したホテル開業60周年記念バッジ

（写真）：
エコキャップ活動の感謝状

■ 館内ＬＥＤ化推進

・2023年度達成率89.6％（2024年度目標100％）

■ 食品ロス削減

・ろすのんを取り入れた啓発活動（農林水産省推奨）
・食品残渣のアップサイクル
・ホテルオリジナルビール製造時のビール発酵残渣の有効利用
　～ビール酵母やビール粕を飼料にしたオリジナル牛、鰻の開発
　～麦芽かすを堆肥にして鹿児島伝統野菜の栽培復活

■ エコフレンドリーオーダーシートの活用

・連泊のお客様にリネン類やアメニティの交換不要の意思表示をしていただくオーダーシートを取り入れています。

■ 3Rの推進

・客室アメニティをもみ殻由来の代替素材へ切替
・紙ストロー・紙パックウォーターの導入
・感染症対策用アクリル板をSDGsバッジなどにリメイク
・エコキャップ運動（ペットボトルキャップでワクチン寄付）

【第2の柱】 地域社会との共生を目指して

地域に根差した事業を通して持続可能な地域社会の発展に貢献します。

＜ホテル周辺ガイドMAP＞

詳細はQRコードをご利用ください

（写真）：島のこども食堂基金に寄付

■ 地産地消の推進

・各料理長が自ら現地に足を運び、食材の試食・生産方法、こだわり等を聞くことで安心安全な食材の提供に繋げています。

■ 自治体と共同したイベントを開催

・食材や特産品の紹介だけでなく、地域の魅力をPRすることで交流人口の拡大に繋げています。

■ 着地型観光の促進

・HPでコンシェルジュおすすめの観光コースを掲載。
地元のスタッフだからこそ伝えられる穴場スポットなどを紹介しています。

■ 自治体や諸団体との連携

・かごしまSDGs推進パートナー登録
・鹿児島県SDGs登録制度認定
・かごしまこども食堂支援センターアンバサダー登録
・かごしま環境未来館賛助会員・共同運営委員

■ 寄付・募金活動

・鹿児島県（国体・かごしま大会実行委員会へ）
・鹿児島市（ソフトテニスネット＆ボール寄付）
・徳之島町（寄付金及び連携協定締結）

【第3の柱】 Well beingの実現を目指す

すべてのステークホルダーの物心両面における幸福を追求します。

（写真上）：
ホテル敷地内にある託児所

（写真下）：
城山ホテル鹿児島ソフトテニス部
第68回 女子全日本実業団ソフトテニス
選手権大会優勝（2024年7月）

■ 女性活躍推進

・鹿児島県女性活躍推進宣言企業であり、女性の活躍領域を拡大させ管理職にも積極的に登用しています。（2024年 23％以上目標）

■ 多様で柔軟な働き方の実現と職場環境作り

・短時間勤務制度導入
・育児休業取得の促進（男女共に）
・テレワーク・時差勤務など柔軟な働き方への環境整備
・託児所完備（2007年～ホテル敷地内に設置）
・スポーツキャリアと仕事の両立支援（ソフトテニス部）

■ ダイバーシティ経営の推進

・外国人スタッフの積極的な雇用及び就労サポート
・自治体・学校・企業からのインターン受入れ
・多様性理解のための社内研修実施
・就労支援センターとの連携

■ 社内表彰制度

・永年勤続表彰や素晴らしい活動、功績・業績を挙げた従業員の表彰

■ 社内コンクールの開催

・若手料理人による料理コンペティション、ホテリエNo.1コンテスト、サービスコンクール、笑顔で挨拶キャンペーン他

循環経済の構築を目指して（サーキュラーエコノミー）

サーキュラーパーク九州株式会社との連携

2024年4月、SHIROYAMA HOTEL kagoshimaは九州における資源循環の拠点を目指すサーキュラーパーク九州株式会社と、環境配慮への取組み、地域社会との共生、Well beingの実現を目指し、資源循環への取組みを推進することで、地域の歴史・文化・四季を体感できる場所を実現させるためのパートナー協定を締結しました。

2024年4月25日 パートナーシップ協定締結式

VISION

ホテルから出る廃棄物全般を より高いレベルで再資源化

サーキュラーパーク九州株式会社の知見を活用しながら、SHIROYAMA HOTEL kagoshimaの廃棄物を資源として循環させることで、脱炭素・最終処分場逼迫・資源枯渇等の社会問題解決に貢献します。
また、SHIROYAMA HOTEL kagoshima がこれまで取組んできた食品ロス削減の知見・ノウハウと、サーキュラーパーク九州株式会社の産官学 のネットワークを活用することで新たなシナジーを生み出し、ホテルにおいて大きな課題である食品残渣の問題の解決に向け積極的に取り組んで参ります。

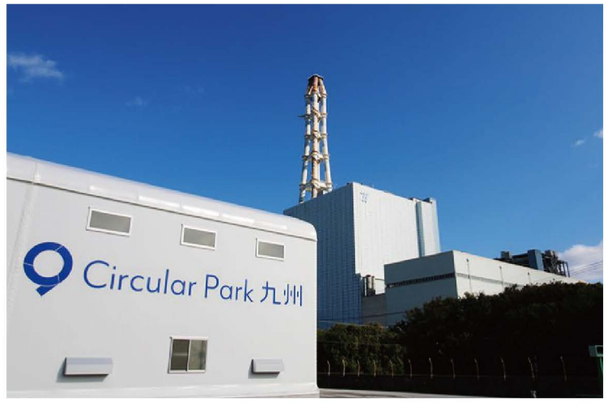
【主な連携事項】

（1）廃棄物の資源循環に関する事項
・改装やリニューアルに伴い発生する什器等の再資源化
・食品残渣の再資源化に向けた研究
・従業員の資源循環に関する教育
（2）地域社会との共生に関する事項
（3）Well Beingの実現

Circular Park 九州

サーキュラーパーク九州株式会社 ＜会社概要＞

【名称】 サーキュラーパーク九州株式会社
【所在地】 鹿児島県薩摩川内市サーキュラパーク1丁目1番
【代表取締役】 春木 優・中台 澄之
【設立日】2023年7月26日
【事業内容】 一般廃棄物・産業廃棄物の収集、運搬、処理及びこれらに関するコンサルティング他

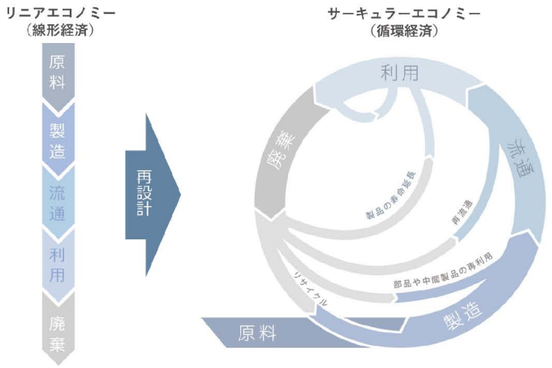


サーキュラパーク九州本社外観

サーキュラーエコノミーとは

サーキュラーエコノミー（循環型経済）とは、今までの線型経済とは異なり、生産段階から消費、廃棄に至るまで資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を目指す社会経済システムのこと。単なる廃棄物の抑制や3R推進などの環境対策とは違い、経済自体の仕組みを変えるために、今後多くの技術開発や新規事業の創出などが見込まれています。

気候変動への対策や生物多様性の尊重、環境汚染など、地球規模の問題を解決するための基本的な考え方になると考えられています。

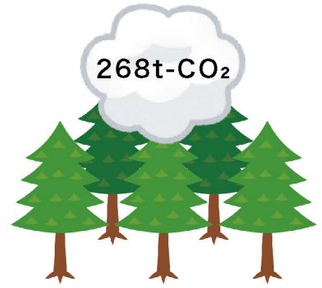


脱炭素社会の実現に向けた取組

SDGs17の目標に掲げられている気候変動への具体的な対策。鹿児島市でも令和元年に「ゼロカーボン宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするための取組を進めています。
SHIROYAMA HOTEL kagoshimaも脱炭素社会の実現を目指し、様々な活動を行っています。

カーボンニュートラルガスの導入

2023年4月1日　導入
■ 契約期間：2023年4月1日～2026年3月31日
■ 供給元：日本ガス株式会社
■ **2023年度実績**
期　間：2023年3月25日～2024年3月25日
供給量：100,000㎥
CO_2オフセット量：268t-CO_2



杉の木約18,900本が吸収するCO_2量

2023年度供給証明書

【カーボンニュートラル都市ガスとは】
天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程でどうしても温室効果ガスが発生してしまうため、新興国における森林保護活動などで創出されたCO2クレジットで相殺する仕組みを活用した都市ガスのこと。

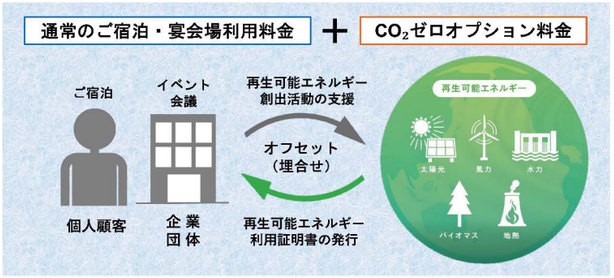
太陽光発電パネル設置

2013年7月　設置
■ 設置場所：ホテル屋上
■ 設置規模：パネル256枚
■ 面　積　：340㎡
■ 発電容量：49kW
■ 発電期待量 年間 50,600kWh
2023年度発電量：
54,597kWh
（年間CO2削減量-22.2t）

ホテル屋上に設置した太陽光発電パネル

CO2ゼロオプションの提供

宴会場使用料金や宿泊料金に追加料金をお支払いいただくことで、環境にやさしい再生可能エネルギーと同等の電力に置き換えカーボンオフセットすることでCO_2排出量を実質ゼロにするサービスのこと。
ホテルでは、宴会場ご利用時のCO_2ゼロオプション「CO_2ゼロMICE」と、ご宿泊時の「CO_2ゼロSTAY」2種類のサービスを提供しています。



藻場再生活動・ブルーカーボンプロジェクトへの参画

■ 名称：山川地区ブルーカーボンプロジェクト協議会
（愛称）山川の海のゆりかごを守る会
■ 事務局：山川町漁協協同組合
■ **2023年度実績**
9月　協議会設立　アマモ種選別
10月 アマモマット製作・設置　※モニタリング随時
環境省「自然共生サイト」認定

ブルーカーボン協議会の
▲ 詳細はこちらから ▲

【活動の目的】　・地球温暖化や海洋環境の変化による「磯焼け」で消失した藻場の再生
・藻場再生によるブルーカーボンの創出を通じた、カーボンニュートラル（CN）ネイチャーポジティブ（NP）地域振興への寄与
・水産資源の維持・保全、持続可能な水産業の実現

地域連携の取組

城山の森みつばちプロジェクト

約600種類の亜熱帯植物が自生する国の史跡・天然記念物「城山」。この豊かな自然林の中に建つSHIROYAMA HOTEL kagoshimaはみつばちにとってまさに宝の山です。
城山の森みつばちプロジェクトは、ホテルの敷地内で環境指標生物といわれるみつばちを育て、城山の環境保全に努めるとともに、100%城山産の純粋蜂蜜を作り新鮮な蜂蜜を様々な形でお客様に提供したいと考え2020年からスタートした養蜂事業です。
また、養蜂を通じた食育活動として毎年地域の子供たちをインターン生として募り、蜜蜂の研究や商品開発などを行っています。

これまでの取組み

（写真上）ホテルの敷地内に設置した巣箱
（写真下）採蜜体験会の様子

2020年　養蜂活動スタート
ホテルの屋上に3箱の巣箱を設置して開始した初年度。
巣箱等の設置費用はクラウドファンディングで支援者を募り、集まった支援金を充当しました。
2021年　養蜂活動2年目
巣箱をホテル敷地内の茂み部分に移して活動開始。5名の高校生インターンとみつばち研究を行い、蜜ろうや県産たんかんで出来たオイルなど自然由来の原料でみつばち石鹸を制作しました。
2022年以降
養蜂活動を地域とのコミュニケーションツールとした学びの場の提供に繋げるため、小学生インターンと高校生・短大生アシスタントによる郷中教育スタイルのみつばち研究活動や採蜜体験会などさまざまな環境教育の機会を設けています。これらの活動を通じて多くの子供たちにとって、みつばちを取り巻く環境や地球環境の現状を知るきっかけとなり、私たちも豊かな城山の森を100年先の未来へ残すために努めて参ります。

地域フェアの開催

竜美大島の宇検村でエビの養殖場を視察

ホテルではレストランで定期的に鹿児島の地域に特化したレストランフェアを開催しています。
地域の特産品や地産地消を活かした企画で、ホテルのシェフが現地に足を運び、生産者とのコミュニケーションを通じて栽培方法や飼育の方法などを知り、実際に現地を見学し、試食をすることで、お客様にも安心安全な食材を提供することができています。
同時に地域の魅力や観光スポットの紹介なども行い、このフェアを通して交流人口の拡大に繋がるよう取り組んでいます。
また、レストランだけでなく宴会場では、地域の魅力をふんだんにPRする地域イベントを開催しています。

【これまでの開催例】　志布志フェア、曽於市フェア、南大隅イベント「喝采の宴」、奄美群島night、いちき串木野フェアなど

2024年7月に開催した「奄美群島フェア」

奄美群島フェアで提供した料理の数々

食品ロス削減に向けた取組

ホテル業界にとって食品ロス削減も大きな課題の一つです。
食品ロス削減には大きく分けて①食べ残し②調理残渣③売れ残り④醸造残渣の4つに細分化されます。
私たちはそれぞれの課題に沿った解決策を検討し様々な取組みを行っています。

①食品残渣（食べ残し）

宴会場では、「3010運動」及び食べ残したものを持帰る「mottECO(モッテコ)」を導入し、活動を推進すると共に普及啓発活動に繋げています。

3010運動

環境省が推奨する宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、乾杯後の30分間とお開き10分前には、自分の席でお料理を楽しみましょう、と呼びかけて、食品ロスを削減するものです。

mottECO

飲食店で食べきれなかったものを「お客様の自己責任で」持ち帰ること。環境省が推奨しているが、当ホテルでも宴会場で導入し、産官学によるmottECO普及コンソーシアムに参画するなど、普及啓発活動に努めています。

②調理残渣

調理の段階で発生する野菜の皮や芯といった残渣は「生ごみ削減機」によって処理しています。これは微生物の力によって生ごみを水と無機物に分解する機械です。毎月約2トンの削減に繋がっています。
また中華料理翡翠庁では、野菜の皮やしいたけの石づきなどをじっくり炒めて中華ならではの調味料「サステナブル醤」を開発、次世代調味料として活用しています。

（写真上）生ごみ削減機

③売れ残り

ベーカリーショップでは消費期限の近付いたパンを冷凍保存し、毎月400個のパンを鹿児島のこども食堂に寄付しています。

これらのパンは「かごしまこども食堂地域食堂ネットワーク」を通して離島を含めた県内全域（約200か所）のこども食堂に届けられています。また、パン以外にもミネラルウォーターや映画鑑賞チケット、クリスマス会へのプレゼントなど支援の輪を広げています。

④醸造残渣

ホテルでは館内にブルワリー工場を併設しホテルオリジナルのクラフトビールを製造しています。ビールを醸造する段階で発生する麦芽かすやビール酵母等の醸造残渣を牛や鰻の餌にアップサイクルし、ホテルオリジナルの城山牛、麦鰻として提供しています。

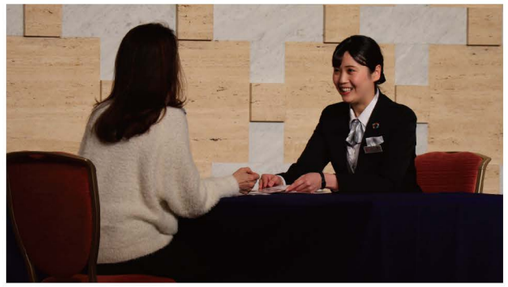
さまざまな社内コンクールを開催

SHIROYAMA HOTEL kagoshimaでは、社員の技術力向上と自己啓発推進のため、様々な社内コンテストを実施しています。
これらのコンテストを通じて従業員同士の相互成長を促すと共に、モチベーションの向上、創造性の発揮、自身の技術力に対するフィードバックの機会に繋げています。
ただ競い合うだけでなく、働きがいの醸成や組織全体のレベル向上を目指すことを目的としています。

（写真上）サービスコンクール2024開催

ホテリエNo.1コンクール

お客様に直接サービスを提供するホテリエ達が、日々の業務を通じて培った接遇技術の高さを競うコンクール。
仮想のお客様とのやり取りを設定し、両部門ごとに課題を定めて（当ホテル情報の案内、及び商品提案など）、日頃接客するなかで起こりえるシチュエーションへの対応力・会話力を審査します。



（写真上）ホテリエNo.1コンクール接遇力審査の様子

■参加資格■
〈エキスパート部門〉 入社５年以上
〈フレッシャーズ部門〉入社５年未満　※共に自薦、他薦問わず

■共通課題■
ホテル内のパブリックスペースにて顧客から声をかけられご要望にお応えする接遇スキルを競う。
※エキスパート部門追加課題
①筆記試験（かごしま検定、マナー・プロトコール、ホテルの歴史等）
②２分間スピーチ（ホテルブランドコンセプトについて）

（写真上）料理コンペティション選手集合写真

料理コンペティション U-29～登竜門～

29歳以下の若手料理人による料理コンペティション。将来ホテルの調理を支える若い料理人の創作意欲と料理へのモチベーションを上げることを目的として毎年開催しています。

■参加資格■
調理本部所属社員　開催当日時点で満29歳以下

■課題■
食材テーマを設定（過去：鯛、黒豚、旬のキノコ等）

■審査内容■
・テーマに沿ったレシピでカセットコンロ２つを使用し作れる料理を作成
・出来上がった順に選手より料理説明、その後料理提供

■審査項目■
調理技術、衛生管理、段取り、食材ロスの有無、レシピの再現度、味、完成度、アイディア性、商品化の可能性、プレゼン力等

（写真上）コンクール課題オレンジスパイラルカット

サービスコンクール

ホテルのサービススタッフならではの、高いパフォーマンス技術を競うコンクール。お客様に最高のひと時をお過ごしいただくために「魅せるサービス」を追求した選手たちがその成果を披露します。

■参加資格■
満29歳以下 ※自薦他薦問わず

■課題■
オレンジスパイラルカット（らせん４巻、６房以上）
キウイカット（８スライス）
カクテル作成（２種より当日１種出題）
その他、東京大会出場選手は別途筆記試験有

料理コンペティション

和食部門最優秀賞作品
「甘鯛の蕪蒸し」

洋食部門最優秀賞作品
「カボス香る太刀魚のセルクル焼き」

健康経営優良法人　2023年3月

健康経営優良法人認定制度とは、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから評価を受けることができる環境を整備することを目的に、2016年度に経済産業省が創設した制度

健康経営優良法人
Health and productivity

えるぼし認定

2024年3月

女性活躍推進法に基づく行動計画の策定・策定した旨の届出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する状況等が優良な企業は、労働局への申請により、厚生労働大臣の認定を受けることができる

かごしま健康企業宣言

2021年7月1日
健康優良企業「銀の認定」「金の認定」を目指して、企業全体で健康づくりに取り組むこと（健康経営）を宣言すること

鹿児島市健康づくりパートナー

2017年1月9日
従業員や家族の健康づくりに取り組む事業所を登録し、働く世代の健康づくりを推進する事業を応援する

鹿児島県女性活躍推進宣言

2017年8月
女性が働きやすい職場づくり、環境整備制度の導入、登用や採用目標などについて、それぞれの状況に応じた取組を宣言する企業を登録する制度

平成29年度鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰

鹿児島市イクボス推進同盟

2017年11月
率先してワーク・ライフ・バランスを推進し、仕事と生活の両立しやすい環境を整え、誰もが働きやすい職場や社会の実現に向けて全力で取り組むことを誓い、宣言するもの。

かごしま子育て応援企業登録制度

2013年8月1日
企業の子育て支援を促進するため，次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し，従業員の仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業を県が登録する制度

JOBS INTRODUCTION
- 職種紹介 -

ホテルは、よく「街」に例えられます。
SHIROYAMA HOTEL kagoshimaが織り成す「街」は、その歴史と伝統を守りながらも、
常に新しい視点をお客様へのおもてなしの心で満たされており、そのフィールドは多岐に広がっています。
お客様に、より質の高い"感動"を提供するためには、設備はもちろん、
そこで働くスタッフ全員のホスピタリティが大きな付加価値となって、より大きな感動を生み出すのです。

STAY - 宿泊 -

お客様のニーズに、いち早く気づき、対応する

館内案内をはじめ観光案内など、お客様が求める情報・サービスをいち早く提供するということも、私たちの大切な役割です。
当ホテルでお客様が快適にお過ごしいただけるよう、様々なお手伝いをさせていただいております。

COOK - 調理 -

「喜び、健康、感動」をお届けするために

当社の調理部門には、和食、洋食、中華と、大きく3つのグループがあります。お客様の多様なニーズに応え、「喜び、健康、感動」を提供するために、総料理長をはじめ各料理長のもと、全員が日々惜しみなく努力をしています。

RESTAURANT - レストラン -

専門性の高いスタッフの最高級サービス

お客様の多彩多様なニーズにお応えすべく、当ホテルでは、和食・洋食・中華と、様々なレストランを備えております。ワインのプロフェッショナルである「ソムリエ」をはじめ、専門性あふれる社員が、お客様に最高級のサービスと感動を提供しています。

BANQUET - バンケット -

非日常の空間と感動をお客様に

当ホテルには15の宴会場があります。そこで行われる結婚披露宴・パーティー・会議などでのサービスを担当する部署です。お客様と数多く接しながら、経験を積み重ね、HRS1級サービス技能士や、現場の責任者を目指し、チーム一丸となり日々お客様へのサービス向上に取り組んでいます。

BRIDAL - 婚礼 -

「幸せのお手伝い」が仕事です

私たちは、お客様のご婚約からご婚礼まで「幸せのお手伝い」をさせていただいております。
ご婚礼の会場選びから、料理や記念品、装花テーブルコーディネート、サプライズ演出にいたるまで、お客様の披露宴をトータルコーディネートしております。

PLANNING&PUBLIC RELASIONS - 企画広報 -

「答えは現場に聞け」をモットーに

企画広報部は、お客様のニーズに合わせたイベントを発案し形にしていくイベント企画グループ、取材対応や、ホテルの情報をSNSや媒体にて告知発信する広報グループの2つの柱から成り立っており、ホテルとお客様を繋ぐ要となるお仕事です。

SALES - 営業 -

ホテル全体を把握し、目標に向かって努力する

販売促進部とは、ホテルのすべてを販売する部署です。宴会、会議、婚礼など、売上げ向上のために、県内一円あるいは県外にいたるまで営業活動を行っています。
部署員は自ら計画を立て、工夫しながら目標達成のために努力しております。

CORPORATE - 管理本部 -

社業発展のために中枢的な業務を担う

企業の4大要素である「人・物・金・情報」を管理するという、企業の中枢的な業務を行なっています。これらの各セクションにおいては、その責務を全うすべく、各部署との連携を図りながら、社業発展のために日々努力をしています。

SDGs推進の歩み
The Road to SDGs Promotion

KAGOSHIMA SDGs

2024

日本ホテル協会「社会的貢献に対する会長表彰」3年連続優秀賞受賞

ホテル開業60周年

2023

鹿児島県SDGs推進登録事業者登録
鹿児島県が創設した、SDGsに積極的に取り組む企業等を登録し、その情報を広く発信する「鹿児島県SDGs登録制度」に、第1回登録事業者として2023年3月に登録されました。

一社)日本ホテル協会が主催する「社会貢献に対する会長表彰」にて2年連続優秀賞受賞
「城山の森の環境保全と持続可能な地域社会の実現に向けた取組み」にて優秀賞を受賞、The Okura Tokyo、帝国ホテル、パレスホテルなど日本を代表するホテルと並ぶことができました。

エコマークアワード2021優秀賞受賞
エコマーク事務局主催の企業の環境への取り組みを評価するアワードに於いて優秀賞を受賞。
従業員で取り組んだSDGsアワードが高い評価を受け「従業員一同の本気度が伝わる、チームワークと創造力、チャレンジ精神に秀でたホテル」というコメントをいただきました。

2022

エコマーク「ホテル・旅館」認定取得
環境や感性症対策等に対する世の中の意識が高まる中で、安心安全を提供できる保証として、また選んでいただく新基準として(公財)日本環境協会が実施するエコマーク認定を取得しました。
エコマーク認定番号 20 503 007

2021

SDGs推進室新設
社内外のSDGs活動をより積極的且つ戦略的に進める目的で、推進グループから推進室に引き上げました。

2020

かごしまSDGs推進パートナー登録
鹿児島市が募集する、SDGsの理念を踏まえSDGsの推進に取り組む企業やその他団体とのパートナー制度に登録しました。

2019

SDGs推進グループ新設
組織内の経営戦略部にSDGs推進グループが新設されました。

2018

SDGs宣言
「私たちは国連が提唱する持続可能な開発目標を支援しています」そして、SDGsを経営計画に盛り込み、全社的に取り組んでいくと宣言しました。

城山観光グループ創業70周年
記念事業を行う中でこれまでの70年を振り返り、これからの70年を考え「持続可能性」を意識するきっかけとなりました。

3 years 3 Month